

## 令和6年度地域貢献プロジェクト事業報告書

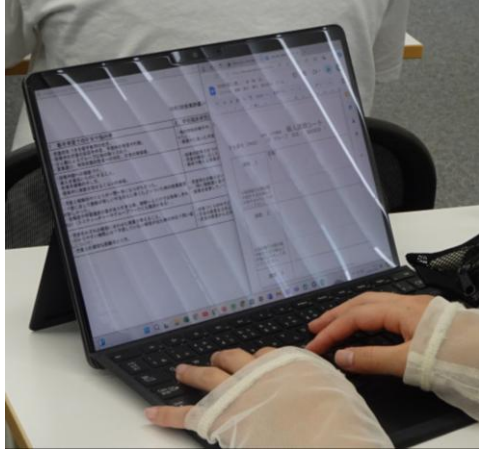
キャンパス名 函 館 校  
代表者氏名 鈴 木 淳

プロジェクト名	道南地域等における学校臨床研究による若手教員の指導力向上に関する調査研究
プロジェクトの概要	<p>本プロジェクトでは、これからの時代の変化に応じた高い資質・能力を身に付けた教師の育成に向け、道南地域等の若手教員と連携し、研究代表者が担当する授業「学校臨床研究」（省察科目）において、授業者から提供される授業観察や、履修学生との研究協議を通じて、教員養成段階において求められる授業力などについて考察する。また、授業者に授業力等に係る内容のインタビューを行い、その内容を履修学生に視聴させ、今後、求められる授業力に資する資質・能力などについて自己評価及び比較検証などを行う。さらに、2名の学部4年生のSA（スチューデント・アシスタント）に授業撮影等を補助してもらい、教員を目指している学部生自身が必要と考える授業力等について情報交換を行い、その内容等を分析する。</p>
地域・学校・子ども等に還元した成果	<p>本プロジェクトを通じて、協力校である森町立森小学校の教員2名（新卒2年目と4年目）の授業分析で得られた授業作りの視点や、今後、必要と思われる指導力のポイント等について、履修生と協議することにより、2名の授業者自身のこれまでの授業実践の省察（リフレクション）にもつながり、新たな授業改善の視点等を得ることができた。また、森小学校の管理職からは若手教員育成に関わるOJTにもつながり、実践的な感覚等が身に付き、教師自身の学びにつながるものと評価された。このことを踏まえ、森町教育委員会自体も次年度以降は、町内の他の学校（さわら小学校、鷲ノ木小学校）にも広げ、町内全体で「学校臨床研究」の授業協力体制を構築し、若手教員育成や、学校全体の活性化にもつなげていく方向で確認したところ。</p> <p>※令和7年度においても後期授業「学校教育の実践と省察」への協力依頼済</p>
学生資質向上・教職資質向上のために果たした成果	<p>本プロジェクトを通じて、これからの授業作りに求められる具体的な指導内容や指導方法等に関わるポイント等について、今後、教員を目指している学部生（SA2名の学生も含む）に理解・定着に努めることで、一人一人の指導力向上に係る身に付けるべき資質・能力等について分析したり、自らの振り返り（省察・リフレクション）による気づき等を通して、自己の学びの成果が可視化されていくことを「学校臨床研究」の授業における学修評価等で把握することができた。</p> <p>特に、SA2名は、新卒教員採用登録となった11月以降、自己課題と真摯に向き合い、授業補助のみならず次年度以降の自分自身の教職につながるイメージをもちながら、授業支援や履修生への助言などを積極的に行われていた様子が見ええた。</p>
キャンパス及び大学への貢献	<p>「学校臨床研究」及び「教職実践研究」における教員研修の一つである授業力向上に資する具体的な実践成果等に基づき、授業改善の視点等を具体的に理解することができる。また、教育実習校の課題研究授業等を観察する視点等の指導等に活用することで、4年生後期に履修する「教職実践演習」の学修内容にも関連させることができる。</p> <p>その他に、附属小学校からの授業提供や授業者との協議等を通して、附属学校教員自身の指導力向上に関する振り返りの一助となった。今後とも、附属学校教員と履修生とのつながりをもつことで、教育実習の内容の改善・充実にもつながる。</p>

※プロジェクトに関係する資料がある場合は、併せて提出してください。



## ■後期授業「学校臨床研究」授業プレゼンから抜粋■



**★第2ユニットにつながる  
具体的な内容**

- \* 児童との信頼関係
- \* 児童との関わり方  
(声掛け、発問、問い返し、指示など)
- \* 弾力的な指導過程の流し方
- \* 授業展開や指導方法に焦点化
- \* 児童の実態に合わせて指導過程の工夫
- \* 導入の組み立て方
- \* 軸がぶれない指導過程
- \* 学年に応じた指導方法
- \* 導入部分における児童の興味の引き出し方
- \* ICTを活用した授業展開
- \* 瞬時に対応する指導の在り方
- \* 机間指導のポイント整理

**★第2ユニットの課題設定  
に向けて**

- \* 具体的な課題設定の工夫
- \* 自分で気付いていなかった課題設定
- \* 自分の強みを生かした授業設計
- \* 授業力向上に向けた課題設定
- \* 第1ユニットの学びを第2ユニットにつなげる  
課題設定
- \* 授業の見方や疑問の出し方が変わったので課題設  
定も工夫
- \* 今後の教育実習に生かす課題設定
- \* 教育実習前と実習後の授業を観察する視点の変化
- \* 他人の課題から学ぶ
- \* 「子どもの視点」を積極的に取り入れた課題設定

# ■ 森小・市原学級での授業風景の一コマ ■



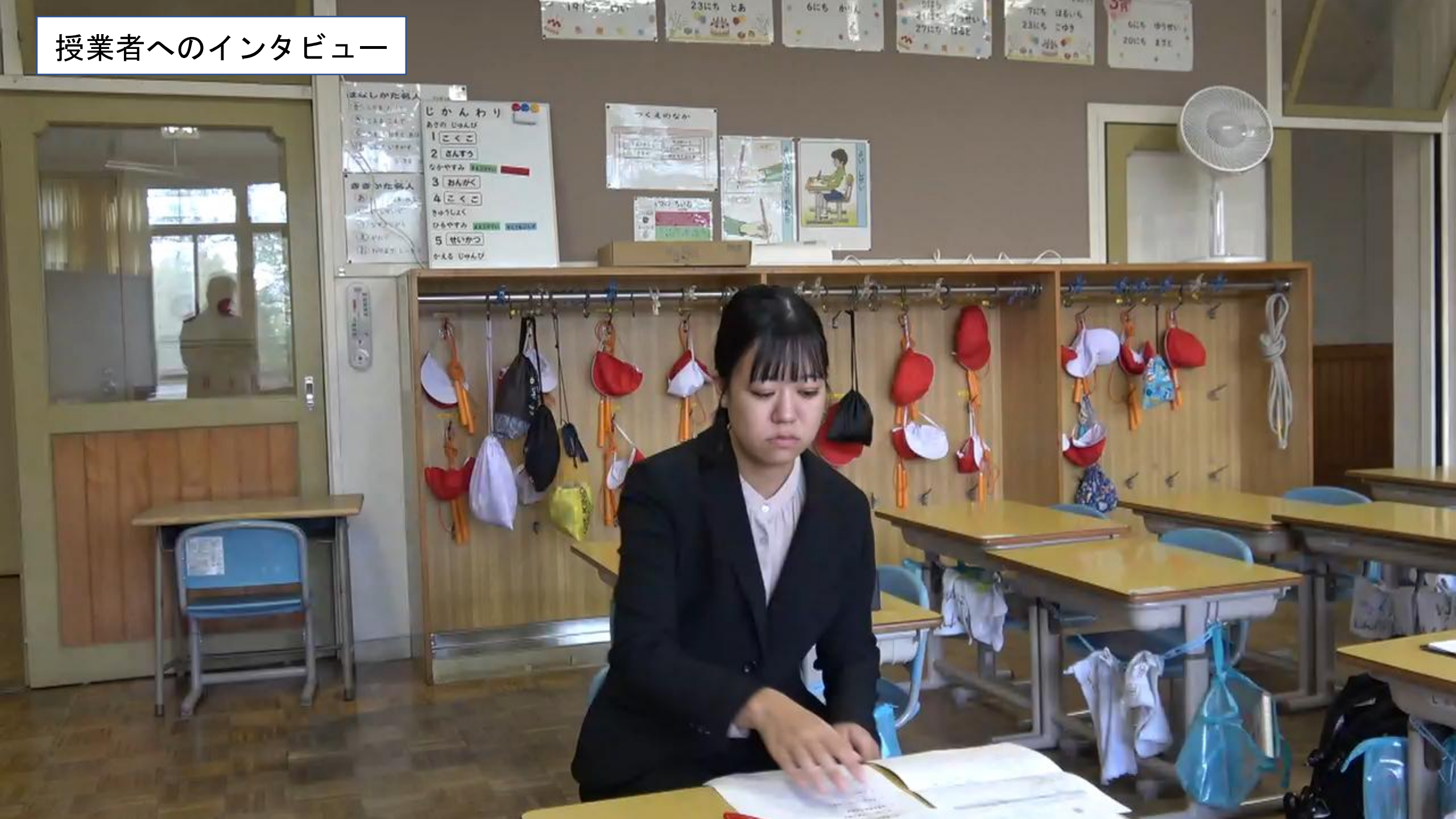
## ■市原先生の授業感想■（一部抜粋）

- ★児童の集中力や興味関心に合わせて、臨機応変に活動内容を変えていたのが印象的だった。
- ★市原先生が発した言葉の一つ一つは児童に伝わるものであったのですごいなと思いました。
- ★的を得た良い考えだけでなく、漢字の指導では間違っている考えも取り上げて全員で正誤を確かめる工夫もみられて、その面でも全員が参加する授業になっていて参考になりました。
- ★根拠なくこっちの方が良いかなと思い、児童と接してしまう場面が実習中にはあったので、根拠や意図を持って児童に働きかけを行なっている部分が凄いなと感じました。
- ★市原先生が子どもの実態をよく知った上で構成されていた授業だと思い、子どもの学びを止めないよう指導案の計画をその都度変更していた、私の理想の授業だと感じました。
- ★指導案はあくまで目安であり、その時の児童の様子に合わせて授業を展開することが必要であるということ学ぶことができました。児童のことを一番に思って授業をすることが教師の役目であると改めてわかりました。

## ■自分で得た学び■（一部抜粋）

- ★授業では、ペアでの学習、意見の発表が多く取り入れられていました。その際、他者を配慮して関わろうとする能力や級友の発言に注目させるような手立てが普段から行われていることがわかりました。
- ★教師が教えるのではなく、児童と一緒に考える時間を設けることを意識していきたいと感じました。
- ★子どもたちの反応から実態に適した授業に臨機応変に変えていく柔軟さも重要である事を学びました。
- ★どこに興味を持たせる導入にするのか、学年や発達段階に応じた方法で行うことが大切だと学びました。
- ★授業でやることは一つ一つ次の活動だったり、一年後の姿に繋がっているように感じ、何が必要か常に考え児童と関わっていくことの必要性を学ぶことができました。

# 授業者へのインタビュー



# ■探究キーワード①■

- ★指導技術
  - ★児童への支援
  - ★児童を置いてかない指導
  - ★ICTと紙媒体を活用した授業づくり
  - ★児童にとって良い授業
  - ★児童からの視点 ★評価
- A**

- ★教師の授業スキル  
(発問、板書、支援)
  - ★児童の心をつかむ(興味関心、支援)
  - ★導入 ★興味 ★児童の発言 ★机間指導
  - ★集中力 ★充実 ★グループワーク
  - ★児童の実態 ★関わり方
- B**

- ★児童の発言や先生の発問
  - ★発問  
(数、つなげ方、内容、難易度)
  - ★導入 ★時間配分 ★時間の使い方
  - ★児童の対応方法 ★ICT
  - ★分かりやすい板書
  - ★学習目標を達成するための指導過程
- C**

- ★興味・関心
  - ★一人一人に合わせた授業
  - ★児童の声 ★授業の流れ
  - ★指導者側 ★教師から児童への声かけ
  - ★授業構成 ★反応
- D**

【指導技術】  
(発問、板書など)

【授業全体】  
(指導過程、授業時間等)

【児童への関わり方】  
(含む：支援)

【その他】  
(教材、グループ構成等)

# Aグループ

板書は  
ノートとPC  
どちらが良いのか

指導に  
一貫性を  
持たせるのが  
難しい

5時間目は  
集中できない  
学習の格差  
どう埋めて  
いくのか

集中力を持続  
させるための  
発問や声かけ

発問が単発に  
なってしまう。  
(適切な適切な授業)

既習事項が  
定着していない  
児童への  
教材

大人しい児童  
との  
関わり方

非言語的要素  
から  
児童の実態を  
見る方法

児童によって  
話し方が関わり方を  
変えるべきか

仲良くなりすぎる  
教師として  
見とらえない  
関わり方

昔年教科の指導  
どうにも難しい  
授業時間ばかり

授業全体  
板書計画をイメージ  
だし、児童の意見も  
板書する事は、  
どこまで上手に決め  
ればいいのか迷う。

スムーズにめあてに  
入る準備が難しい  
- 振り返り(1分)  
の準備が上手に  
いかぬ

集中力が切れて  
しまった児童への関  
わり、置いていかぬ  
ようにする指導の  
仕方

板書計画が長く  
なる。説明に  
しつづける時間が  
長くなる。

指導技術  
目標からずれない  
ようにするための  
発問の準備  
3分間  
準備

児童への関わり  
児童の実態を把握  
した上でどのタイミングで  
どんな関わり方を  
行うか

授業全体  
ICTと教材(ノート)  
を活用した授業の  
組み立て方。

指導技術  
児童のノートに  
合わせた板書の  
組み立て方

指導技術  
児童の関心を引き出し  
た上でどのように課題を  
提示するかの  
(導入)

その他  
学年と活動  
それぞれに合う  
グループ構成について

わかるようにしたい！達成  
したい！と思わせる  
話題の提示(導入)。  
めあての設定

軸がぶれていない授業  
で、教科書の記述が  
考えられる、話し合える  
授業展開

端的で、目的がよく  
わかるめあての設定

勉強が得意ではない  
児童のために！わかる！  
を増やせ、自信につなげる  
声かけ、授業展開

学ぶこと、考えること、  
発表することが楽しいと  
思えるように先生の反応、  
学校の雰囲気作り

深い学びに  
なる授業とは、

児童の活発な発言を  
取り入れて、学級の中  
に促すには、  
得意な一語に授業を  
つなげる必要がある。

わかる！できる！か  
増えている授業を  
するにはどうしたら  
いいか。

意味のある活動・問い  
の提示と準備  
児童の意見も  
板書する事は、  
どこまで上手に決め  
ればいいのか迷う。

教科書・教材・手法  
の活用  
児童の実態を把握  
した上でどのタイミングで  
どんな関わり方を  
行うか

児童の関心を引き出し  
た上でどのように課題を  
提示するかの  
(導入)

授業全体の組み立て方  
児童のノートに  
合わせた板書の  
組み立て方

児童の関心を引き出し  
た上でどのように課題を  
提示するかの  
(導入)

# 【授業観察と省察】

◎授業視聴 ※45分

※授業メモは指導案に  
お願いします。  
※課題解決整理シート  
②、③への記入も可



## 第3学年国語科学習指導案（略案）

期 日：令和6年11月27日（火）  
時 間：第5校時  
対 象：第3学年2組32名  
学校名：北海道教育大学附属函館小学校  
授業者：佐藤 秋杜

- 1 単元名  
詩の楽しみ方を見つけよう  
「詩のくふうを楽しもう」（光村図書 3下）
- 2 本時の目標  
「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。
- 3 本時（全1時間中の2時間目）  
本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動 ◇予想される児童の反応	・指導上の留意点	■評価規準 (評価方法)
導 入	○「(かたつむり)」の詩の2行目から読み、詩の題名を予想する。 ◇何のことだか、さっぱりわからないよ。  ○「かたつむり」の詩の1行目を提示する。 ◇「からはおもくて」とあるから動物のことかな？ ◇わかった！それぞれの行の最初の文字をつなげると「かたつむり」になるよ。 ◇なるほど。「りっぱなおうち」が、かたつむりのからを表しているんだね。	・ICT を活用し、1行ずつ提示する。  ・最後に1行目を提示することで、頭の文字をつなげると「かたつむり」という言葉になること。そして詩の内容もかたつむりをあらわしていることに気付かせる。	
	㊦ 詩のくふうについて考え、お気に入りの詩を見つけよう。		

<https://youtu.be/XJN4radzk4c>

【佐藤先生への質問項目：一覧】

■Aグループ

- (1) 意見が上手く分散する発問を考える上で気をつけていることは。

■Bグループ

- (1) 導入の時間配分は、どのように考えていますか。
- (2) 児童の予想外の解答をした時の対応は。
- (3) 特定の児童に複数回指名していたが何か意図はあるか。
- (4) 「ビスケット」という発言が出た時に、学級全体で「○か×か」を評価させる活動は、日常的な活動の一つなのか。(発言した児童への配慮は?)

■Cグループ

- (1) 机間指導と「ノートに○をつける指導」をそれぞれ行っていたが、どういう違いがあるのか。
- (2) 6つの詩の中で、何故、「かたつむり」「なみ」「ことばだいすき」「あした」の4つを取り上げたのか。また、その理由は。

■Dグループ

- (1) 分かりやすい板書のための工夫
- (2) 予想外の反応や発言が児童から出てきた時の対応

■Eグループ

- (1) どのような個別指導を行っていますか。(量、方法など)
- (2) 指名した児童は、どのように選んでいるのか。

■Fグループ

- (1) 「指導」と「支援」の見分けや区別に迷うことはあるか。
- (2) 展開の途中でまとめに入ったのは何か意図があったのか。
- (3) 同じ児童を指名してた印象があったが、何か意図があったのか。

■Gグループ

- (1) 挙手している児童への指名には意図があったように感じたが、どのような点を意識して指名していたのか。
- (2) ICTをどのような目的で使用していたのか。

### 【Aグループ】

- 課題キーワード： ★児童にとって良い授業  
★児童を置いていかない授業

#### ■課題解決に向けた授業観察の視点

- ① 発問
- ② 机間指導
- ③ 興味関心を引くための工夫
- ④ 教師の雰囲気
- ⑤ 児童との関わり方
- ⑥ 声かけ

### 【Bグループ】

- 課題キーワード： ★発問

#### ■課題解決に向けた授業観察の視点

- ① 興味や関心を引きやすい方法
- ② 補助発問
- ③ 次の展開につながる発問
- ④ 児童の実態（学習進度や雰囲気など）に応じた発問
- ⑤ 児童の発言に対する問い返し
- ⑥ 意図的な発問か、その場で考えられた発問か

### 【Cグループ】

- 課題キーワード： ★授業の流れがつかみやすくなる導入の発問
- ・ ICT機器の効果的な活用の仕方  
→どの場面でICTを使えばいいのか  
→紙とICTどちらを使えばいいのか
  - ・ 児童の意見の広げ方
  - ・ 先生が求める発言の児童への引き出し方

#### ■課題解決に向けた授業観察の視点

- ① 導入の中で、めあてにつながるどんな発問をしているか
- ② 児童の意見をどのように授業に取り入れるのか
- ③ 学習活動でICTを適切に活用する方法や工夫について
- ④ 教員が求める考えや意見を引き出す方法について

### 【Dグループ】

#### ○課題キーワード：

- ★授業の構成（時間配分、重点を置くポイント）
- ★個別に合わせた児童との関わり
- ★ICT機器活用

#### ■課題解決に向けた授業観察の視点

- ① 導入、展開、終末の時間配分
- ② 導入での気の引き方（教師の発問）
- ③ ICT機器と紙媒体をどう組み合わせて授業しているか

# ■12月11日（水）のライブ配信授業（八幡小・大岩先生）■



第1学年 算数科学習指導案

日時 令和6年12月11日(水) 5校時  
 児童 1年2組 25名  
 指導者 教諭 大岩 みやび

1. 単元 けいさんピラミッド

2. 単元の目標


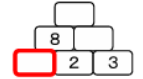
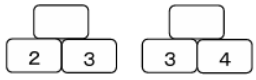
既習事項を総合的に適用して問題を解決することを通して、既習内容の理解を確認する。

3. 本時の学習 (1/2)

(1) 目標

・数を2つの数の和や差として捉え、計算ピラミッドの解決の仕方を考えることができる。(思考力・判断力・表現力)

(2) 展開

種別	学習活動	教師のかかわり・評価規準
導入	<p>○導入問題の計算ピラミッドに出会う。</p>  <p>どうやって数を入れるんだろう。</p> <p>足し算や引き算を使うのかな。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <p><b>か</b> けいさんピラミッドのしくみをしり、もんだいをとこう。</p>	<p>・導入問題の計算ピラミッドを提示し、足し算や引き算を使いそうであるという見通しを持たせる。</p>
展開	<p>○計算ピラミッドの仕組みを理解し、問題を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・となりどおしのかずをたす。</li> <li>・こたえは上のますにかく。</li> </ul> <p>○問題①②を見て、空いているますにあてはまる数を考え、ピラミッドを完成させる。</p> <p>○問題③を見て、下段のますがあいているピラミッドの解き方を考え、隣の友達と伝え合う。</p>  <p>2といくつで8になるかな…</p> <p>8-2をするといいのかも。</p>	<p>・ピラミッドの仕組みが分からず戸惑っている児童には、下のような簡単な場合に分解して考えさせる。</p>  <p>・上のますから見ていって引き算で考える問題であることに気付かせる。</p>

## 【大岩先生への質問項目：一覧】

## ■ Aグループ

- (1) 「振り返りの視点を示す」という点に関して詳しく聞きたい。
- (2) 「人の話を静かにきちんと聞く」ことを大切にしているように感じたが、他に大切にしているきまり等はあるか。
- (3) 児童の立ち歩き等の注意で意識していることは何であるか。

## ■ Bグループ

- (1) 「今、聞く時間」「鉛筆を持って」などの一部ルールのようなものを使っていたが、どの授業でも使うのか。どのクラスでもやるのか。声のみのため、もっと分かりやすいものにしないのかを聞きたい。

## ■ Cグループ

- (1) 授業のまとめをどのようにしようとしていたのか。
- (2) 授業の導入で工夫している点（今回は、ピラミッドを見せ、興味を引いていた）
- (3) 学級経営で気をつけていること。

## ■ Dグループ

- (1) 板書とICTの2つのツールを活用した授業構成の意図は何か。  
→黒板とIPadのノートを両方活用している意図。加えて、両方書く量が多い場合の進め方
- (2) 児童が落ち着かない時、どのような対応をとっているのか。  
→声かけ、間のとり方など
- (3) 学級経営で気をつけていること  
→ここだけはゆずれないルールとは何か

## ■ Eグループ

- (1) 児童の集中力持続のための支援方法
- (2) 個別支援の際、どのような児童に目星をつけているのか。

## ■ Fグループ

- (1) 4月と現在の児童の様子の違いや、改善していくにあたり、どのような指導を行ってきたのか。
- (2) 特別なニーズのある児童はいるのか。また、その子に対しての支援はどのようにしているのか。
- (3) 授業内容を理解していない子に対して、いつ、どのような支援を行っているのか。

## ■ Gグループ

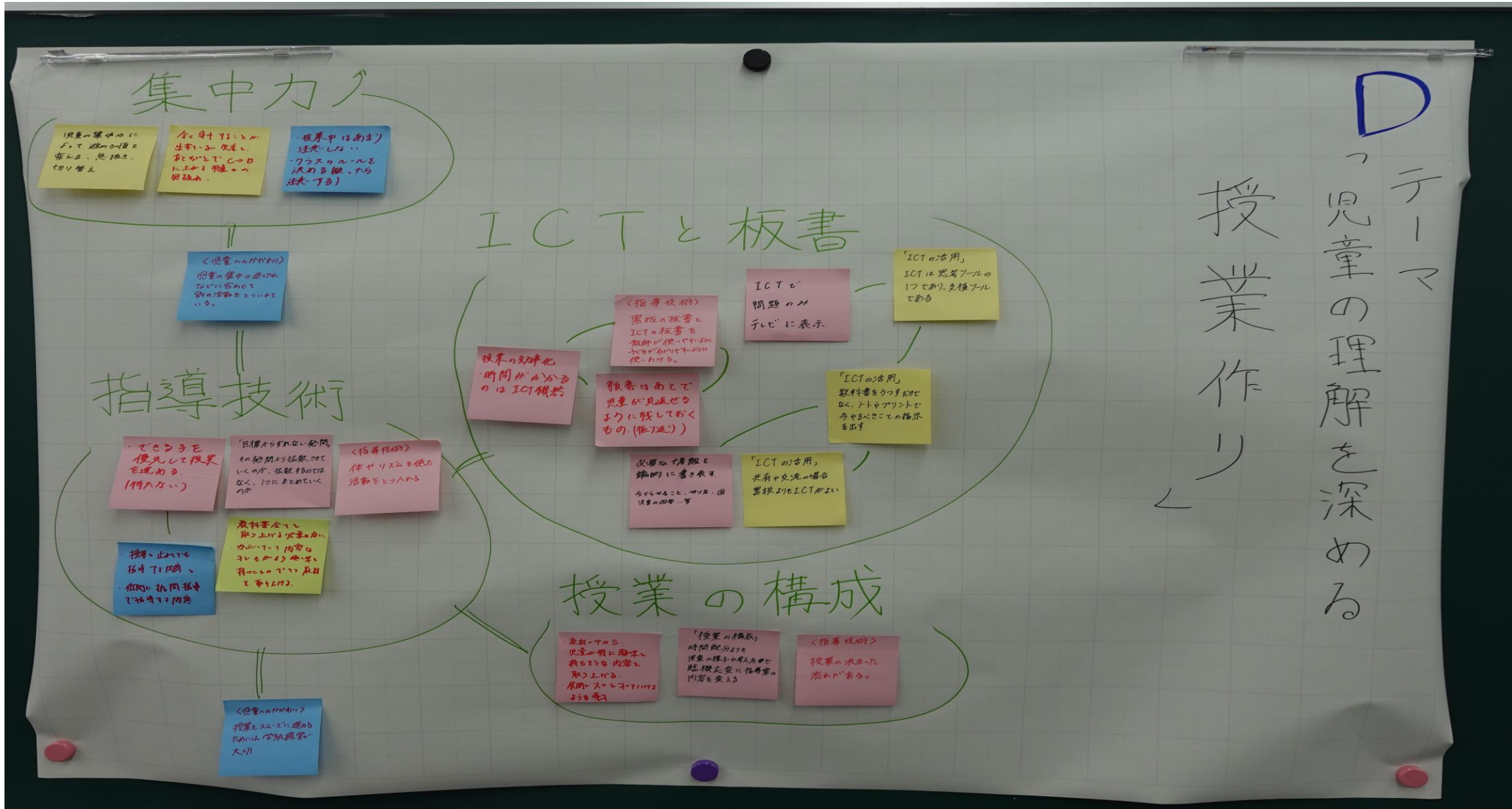
- (1) 何故、同じノートではなくタブレットを活用しているのか。
- (2) 算数用語を使っていない意図とは。(〇ー〇の「ー」を「バイバイすると」と表現)
- (3) 1年生で交流は難しくないのか。交流は日常的に行っているのか。

■第3ユニットで取り組みたいこと等を整理してください。 ■ ※1月8日への提出資料から一部抜粋

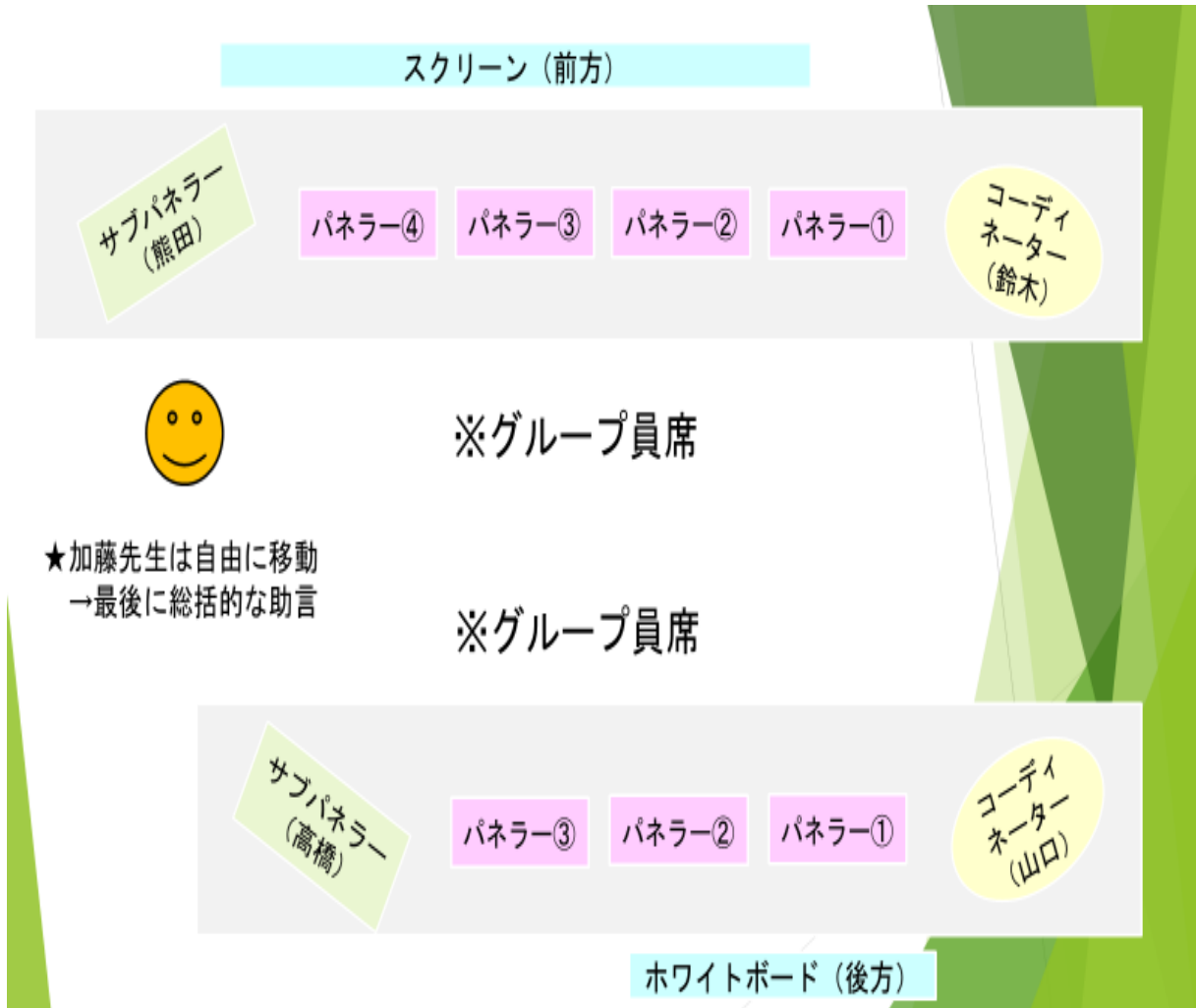
- \* 明白になってきた課題と向き合い、自分たちが目指す良い授業を実現するためにはどうすればよいのか、しっかり考えていきたい。
- \* 理想とする授業について、スライドを作っていくと思うが、私のグループには特別支援に興味のある人が多いが、特別支援関係なく困難を抱えてる子どもにどう対応していくことが理想的なのかをみんな考えていきたい。ありきたりな支援方法だけでなく、オリジナルな方法を見つけていきたい。
- \* ICTをどうやって理解を深めるために活用していけるか深堀したい。
- \* グループで話し合った結果、「支援」と「興味関心」がキーワードとなった。それを上手く引き出す授業を作っていくために特に「支援」に焦点をあてて「興味関心」に広げて行きたいと考えた。
- \* 抽象度の高い授業案ではなく、より現場で実践することが考慮された具体的で再現性のある授業案の提案を目指していきたいです。
- \* 来期の実習に生かせるように学べるものを増やしたいです。
- \* どういう課題があって、授業の見学からどういう部分に注目した結果どう考えたのかという部分もみれると更に深まると感じた。みんなが課題と感じたこと、さらに解決したいことを共有して、自分が重要視していなかったけど大切なことに気づくことで学びを広げていきたい。
- \* ICTと板書を上手く使い分けた授業を展開したい。私たちのグループは「発問」が1番の課題であるが、その発問を広げるためにもICTの使用は効果的だと考えているからだ。
- \* 教育実習で持った課題を解決していく集大成となるので、課題をより深く考え、学んだことをどう授業に取り込んでいくか考えていきたい。

★先生方からもっとアドバイスがほしいです。グループで離している途中で考えが煮詰まることが多いので先生方の意見や新たな視点もいただきたいです。

# 「理想とする授業」構想提案プレゼン作成例 (Dグループを参考)



# 「理想とする授業」パネルディスカッション



## ■第1会場 (前方)

- Cグループ (6年道徳)
- Dグループ (5年社会)
- Eグループ (2年算数)
- Gグループ (3年社会)

### <1グループ>

- プレゼン: 10分~15分
  - ディスカッション: 10分
- ※フロアーの方は、コメント作成を適宜、お願いします。

## ■第2会場

- Aグループ (2年算数)
- Bグループ (4年算数)
- Fグループ (2年算数)